

有職雛 女雛 所蔵:伊達博物館 を博物館スタッフが表える っとここだけのハナシ

The Date museum presents Date na kobanashi ...

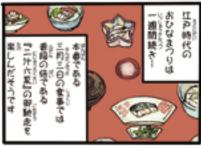
■資料が伝える伊達家のひなまつり

伊達家では、宇和島と江戸の お屋敷にそれぞれ藩主の夫人や 子供たちが暮らしており、おひな 様のお祝いが催されていました。

宇和島の年中行事の記録によ ると、菱餅や桃の花のお銚子(冷

だてされちのひでむにぇくれ









酒) が用意されました。菱餅は 今のように5色ではなく、草餅 と白餅の2色でした。

お祝当日の食事は朝夕共に、 二汁六菜(汁物2品におかずが 6品) でした。当時の普段の食 事はだいたい一汁三菜(汁物1 品におかずが3品)が基本です から、普段の倍の量ということ で、ご馳走だったようです。

そしての元いとして、重箱に 料理が用意され、酒の肴や藩主 の身内から鯛の干物が振る舞わ れたことが記されます。

一方、江戸藩邸でのひな祭りの 様子は宇和島よりも詳しく記され ていて、「御雛御饗応」として2月 28日から3月5日までの約1週間

にわたり催されていました。

まず2月28日にはおひな 様にお供えする「ひなのし」 というお供飾(10膳)と豆 や餅、お米の「煎物」が用 意されました。ここで登場 する「煎物」とは現在のひ なあられの原型のようです。

食事は、2月28日から3月2 日までは普段通りの一汁三菜で、 29日からは食後にお菓子も用意 され、饅頭やようかんなどの蒸 したお菓子が用意されました。

3月3日のお節句当日は、宇 和島と同じく二汁六菜のご馳走 に、酒、酒の肴、桃の花のお銚子、 甘酒、お茶うけ菓子として餅菓 子が梅竹の描かれる華やかな重 箱に用意されました。またこの日 は、江戸藩邸に勤める家臣たち や藩主や夫人に仕える奥女中た ちにもそれぞれに食事が振る舞 われ、宴会が催されたようです。



「五節供之飾」より3月3日の担供飾 所藏 公益財団法人主和島伊建文化保存会

そして、最終日になる3月5 日のおひな様をしまう日には、 蕎麦が用意されていました。お ひな様を片付けることは移動(= 引っ越し)させることであるため、 蕎麦を供える風習があるようで、 雛蕎麦ともいわれています。

伊達博物館では、旧暦の3月 5日にあたる4月初旬まで「ひ な人形とひな調度展」を開催し しています。皆さんのお越しを 心よりお待ちしています。

【問合先】 **伊達博物館 四**22-7776

展示期間:「ひな人形とひな調度展」 4月6日(1)まで 開館時間:午前9時~午後5時(受付は午後4時30分まで)

休 館 日: 月曜日・1月1日(x)~3日(金)

入館料:大人 500円/高校・大学生 400円/小・中学生 無料